

「上牧町学校適正化基本計画（小学校の統廃合に関する方針）」に関する提言書（案）に対するパブリックコメントへの回答について

ページ数	21ページ	項目	2-4	タイトル	小規模（少人数学級）について
いただいた意見					
<p>児童数が減少していくかもしれないが、3校を統合するのには反対である。上牧小学校、上牧第二小学校の建替はものすごく費用がかかるので、財政上は一枚にしたいのだろうが、地域に小学校があるというのは、転入の大きなメリットになる。学校は児童が毎日使う施設であり、これほど利用頻度の高い建物は少ない。校舎を建てるのは大変であるが、50年間使用するものであることから、当面の財政危機は仕方がないと考える。耐久年数に見合った学校建設を計画しておくべきだった。</p>					
協議会の考え方					
<p>現在、3校の校舎がありますので、安全に使用できるうちは、学校運営や教育環境を重視して適正配置すべきと考えておりますが、校舎の老朽化が進んでいきますと、児童の安全確保の観点で最も重視されますので、財政的に建替ができない場合においては、安全な校舎を保有する学校と統合にすることによって安全を確保するという方法をとらざるを得ないのではないかと考えられます。</p> <p>また、協議会からは、複合化などにより学校の魅力を高めることや、移動手段を確保することによって、町の魅力を高めることも提言しています。今後、人口・児童数の減少が見込まれますので、ご指摘のとおり、維持管理コストの削減など、将来を見ずえた計画的な対応が望まれます。</p>					

「上牧町学校適正化基本計画（小学校の統廃合に関する方針）」に関する提言書（案）に対するパブリックコメントへの回答について

ページ数	21ページ	項目	2-4	タイトル	小規模（少人数学級）について
いただいた意見					
<p>国の複数学級が好ましいとの見解ももっともであるが、運動会の際は学級でも2つに分けるとか、音楽会は全校児童が揃ってすることでデメリットが防げると考える。複数のクラスで競争しないと学習が伸びない理由はない。</p>					
協議会の考え方					
<p>現在でも、すでに小規模化（単学級）は発現しており、学校現場ではさまざまな工夫を重ねながら対応されています。しかしながら、児童や保護者間においてトラブルが起きた際にクラス替えによる対応ができないことなど、工夫だけでは解決できない問題もあります。</p>					

「上牧町学校適正化基本計画（小学校の統廃合に関する方針）」に関する提言書（案）に対するパブリックコメントへの回答について

ページ数	21ページ	項目	2-4	タイトル	小規模（少人数学級）について
いただいた意見					
通学に長く時間がかかることについても熱中症等の健康被害が懸念され、反対である。					
協議会の考え方					
統合によって通学負担が増す場合、中学生のように自転車通学をさせることで解決することは、安全面の観点から現実的でないため、実際に統合する場合、特に夏季においては、何らかの通学支援を検討する必要があると思われます。					

「上牧町学校適正化基本計画（小学校の統廃合に関する方針）」に関する提言書（案）に対するパブリックコメントへの回答について

ページ数	21ページ	項目	2-4	タイトル	小規模（少人数学級）について
いただいた意見					
<p>人口統計をみて、統廃合を判断するのは大変難しいことである。上牧小学校と上牧第二小学校のどちらかが単学級になったり、残した小学校の学級において困ったりすることが出てくるまでは、3校存続で様子を見るのがよいと思われる。</p>					
協議会の考え方					
<p>上牧町学校適正化基本計画策定時も児童数推計を実施されましたが、結果的に現状と乖離があり、本協議会においても、このたびの検証に当たり、児童数推計を実施しましたが、その確度については担保することは難しいため、児童数推計だけを根拠に統廃合の方針を決定することはすべきではないと考えています。</p> <p>現行計画では、最も児童数が少なく廃止する対象とされていた上牧第二小学校と最も児童数の多かった上牧小学校が、わずか4年で児童数が逆転する状況となっていることから、今回の提言では、現行計画の上牧第二小学校の廃止については一旦白紙とし、今回の推計において、一部の小学校で全学年単学級になる可能性があるとした令和11年度までは経過観察期間とすることとしています。</p>					

「上牧町学校適正化基本計画（小学校の統廃合に関する方針）」に関する提言書（案）に対するパブリックコメントへの回答について

ページ数	21ページ	項目	2-4	タイトル	小規模（少人数学級）について
いただいた意見					
<p>義務教育学校・小中一貫校については、明確に成功したといえる例がないので、急ぐ必要はないと考える。</p>					
協議会の考え方					
<p>協議会での議論においても、義務教育学校や小中一貫校のメリットと考えられる点については、現行の設置形態（小学校6年・中学校3年）でも連携をとることで得られるという見解であり、性急に検討する必要はないと考えております。</p>					